

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	土肥伊都子	所属	神戸松蔭女子学院大学
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会 公開研究集会 「百合子ダスピダーニャ」の上映とトークセッション －監督浜野佐知氏と脚本家山崎邦紀氏をお招きして－		
成果概要	<p>1) 参加人数</p> <p>会員 10 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 13 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>○公開研究集会の目的 2016年度の公開研究集会では、ジェンダー心理学の学際的发展と心理学の教育場面にフィルム・スタディーズを応用する手法を参加者が共有する機会を提供することを目的とする。具体的には性的マイノリティ (LGBT)、性指向と性自認、女性の生き方とキャリア形成など、ジェンダー心理学に親和性のある問題を映画の制作者と参加者がともに双方向のコミュニケーションを通じて、理解を深めていく。</p> <p>○公開研究集会の実施内容・成果・将来計画 日本では人口の7.6%が性的マイノリティであると推計された(電通ダイバーシティ研究所, 2015)。このような状況にもかかわらずジェンダー心理学の研究は異性愛の枠組みから行われたものが主であり、なかでも女性の同性愛に関する研究は少ない。そこで今回の公開集会では、映画「百合子ダスピダーニャ」を上映し、参加者に「女性の側から性の主体性」を題材として提示した。この映画は、大正から昭和の時代にかけて、「女を愛する女」であることを公言していたロシア文学者の湯浅芳子と作家の宮本(中條)百合子(のちに宮本顕治と結婚)との同性愛を中心に描いたものである。</p> <p>映画上映後、「百合子ダスピダーニャ」の制作者であり、ジェンダーの視点から「女性の性」を描いてきた映画監督の浜野佐知氏と脚本家の山崎邦紀氏が、当時と現在の日本のフェミニズムの状況や、湯浅芳子の生き方を通して日本の女性の性的マイノリティについて解説を受けた。それを受けて、参加者は各自の研究テーマに参照しながら、映画に対する意見の表明と討論が行われた。</p> <p>映画を通じて、性的マイノリティ (LGBT) という言葉が発明される以前の日本の女性の同性愛者の「個」としての生き方を理解することは、研究される主体の内面や現象を社会的状況や出来事に沿って理解しようとする質的研究や自事例研究に応用できる可能性が示唆された。</p> <p>将来計画としては、映画を素材としてジェンダーをアクティブ・ラーニングで学ぶ手法をさらに深めていくためのワークショップ、映画から学ぶジェンダー心理学研究のテキストの企画を検討している。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会				
研究集会開催日： 2016年7月24日(日)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	井ノ崎 敦子	徳島大学学生支援センター学生相談室	○	
2	宇井 美代子	玉川大学文学部人間学科	○	
3	上野 淳子	四天王寺大学人文社会学部社会学科	○	
4	纒坂 英子	駿河台大学心理学部	○	
5	荻野 佳代子	神奈川大学	○	
6	土肥 伊都子	神戸松蔭女子学院大学人間科学部	○	
7	永久 ひさ子	文京学院大学	○	
8	滑田明暢	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	○	
9	福富 護	東京学芸大学名誉教授	○	
10	望月 雅和	東京大学 先端科学技術研究センター	○	
11	武子 愛	大阪府立大学		
12	安藤 優子			
13	カドカチェトリ 順			
14	村岡民弥子			
15	竹山 明子	カンザス大学		
16	ヤノ ヒロスケ			
17	長田 真紀子			
18	ヨシダ ヨウコ			
19	小島 ひろ子			
20	山本 雅			
21	ヒノ マチコ			
22	三上 かおり	レインボー・アクション		
23	大西 蘭子			
24				
25				

(様式5)

2016年8 月 30 日

日本心理学会研究会 2016 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会

研究会番号 研15004

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2016年7月24日	映面上映著作権料	¥70,000
		支出合計
		¥70,000